

# 特定行為研修修了者の看護師としての役割と活動の支援について

## －研修修了者および研修指導者の立場から－

宮下 郁子<sup>†</sup>第75回国立病院総合医学会  
(2021年10月23日～11月20日WEB開催)

IRYO Vol. 76 No. 6 (420-423) 2022

### 要旨

国立病院機構四国こどもとおとなの医療センターでは、呼吸器関連の看護師特定行為研修修了者（以下、特定看護師）7人が活動している。全国的にも特定看護師の人数はまだ少なく認知度は低い。そのため、役割は施設ごとに様々であり、特定看護師が課題に直面しながら創り上げているのが現状である。そこで安全、安心な環境で、役割を十分に発揮できるように活動の支援に取り組んだので報告する。

特定看護師に当院が期待した主な役割は、重症心身障がい児（者）病棟での定期気管カニューレ交換、計画外抜去時の対応、看護師への呼吸ケア教育であった。しかし当院の特定看護師は重症心身障がい児（者）病棟の勤務経験がないため、患者の個性を捉えた特定行為を含むケアの提供が難しいと感じる場面があった。また、特定行為の知識・技術だけでなく、看護師としての調整力や多職種との協働など多岐に渡る能力も必要とされるが、各々の特定看護師はそれらの能力をすべて修得しているわけではない。

そこで看護部・診療部一体となった組織全体の支援が必要と考え、1) 特定看護師運用マニュアル作成、2) 特定看護師会の設置、3) 看護師特定行為検討委員会の設置、4) 特定看護師の勤務調整を行った。

その結果、定期気管カニューレ交換は対象患者全体の72.6%を特定看護師が実施し、支援体制整備前と比較し42%の増加を認めた。臨時気管カニューレ交換は75%を特定看護師が対応できるようになった。カニューレ交換件数増加に繋がった要因として、1)～4)の支援を行ったことで実践しやすい手順書の運用、適切な患者の選別が可能となった。同時に精神的な負担が軽減でき能力を発揮しやすくなったと考える。

今後はさらに特定看護師が増加し、期待も大きくなると予測される。今回の取り組みが、特定看護師のモチベーションのアップに繋がり、患者や組織に貢献できる活動の支援体制の一助となると考えられた。

キーワード 看護師特定行為、看護師特定行為研修、気管カニューレ交換

国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター †診療看護師  
著者連絡先：宮下郁子 国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター  
〒765-8507 香川県善通寺市仙遊町2丁目1番1号

e-mail : miyashita.ikuko.zv@mail.hosp.go.jp  
(2022年3月30日受付、2022年10月14日受理)

Providing a Support for a Trained Nurse Practice to Play Her Role as a Nurse :  
From a Nurse Practitioner's Perspective

Ikuko Miyashita, NHO Shikoku Medical Center for Children and Adults  
(Received March. 30, 2022, Accepted Oct. 14, 2022)

Key Words : specific nursing practice, specific nursing practice training, tracheal cannula exchange